

受験生はこの大学を見ている！

エリア別大学閲覧数 TOP20

日本最大級の大学受験ポータルサイト
「大学受験パスナビ」ユーザーデータ分析

旺文社 教育情報センター 28 年 8 月 25 日

志望校選びをする際、受験生はどの大学の情報を調べているのだろうか。日本最大級の大学受験応援ポータルサイト「大学受験パスナビ」のユーザー（以下、パスナビユーザー）のデータから、28 年度入試の受験生の大学閲覧傾向及び閲覧の多い大学を主に“エリア”の観点から分析した。その結果、「受験生の学力層」と「地元大学の難易度やブランド」の関係が閲覧状況に大きく影響を与えていることが分かった。

◆多くの大学受験生が利用する「大学受験パスナビ」とは

「大学受験パスナビ」とは、受験生が志望校選びをする際に必要な情報を掲載している日本最大級のポータルサイトだ。入試科目等の情報が全大学分、大学ごとに掲載されており、全国の受験生がこれを閲覧する。パスナビユーザーの大学閲覧状況を分析すれば、全国の受験生が志望校選びの際にどの大学の情報を多く閲覧しているかを分析することができる。

パスナビデータを見る価値は、受験生が受験のその時々における志望校選びの行動が見られる点にある。そのため、本データは入学者数データや志願者数データの分析とも異なる、もっとその前の潜在的な「志望校選びデータ」と言えるだろう。

◆受験生が閲覧する大学の傾向は？

本記事では、27 年度パスナビユーザーの大学閲覧状況を、受験勉強が本格化する 8 月から 3 月までの期間について、主に“エリア”の観点から分析した。全国 8 つのエリアの分け方は以下の通り。

北海道・東北：北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

甲信越：新潟県、山梨県、長野県

北陸：富山県、石川県、福井県

東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

関西：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国・四国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

表1 各エリアのユーザーが閲覧している大学

0-10% 11-15% 16%-20% 21%-

「北海道・東北」のユーザー ⇒ 地元、「関東」私立大が強い

大学	閲覧先の大学の所在地								
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州	合計
国立大学	16%	8%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	30%
公立大学	6%	2%	1%	0%	0%	1%	0%	0%	10%
私立大学	15%	38%	1%	0%	1%	3%	0%	0%	60%
合計	37%	49%	3%	1%	2%	5%	1%	1%	100%

「関東」のユーザー ⇒ 地元が圧倒的に強い

大学	閲覧先の大学の所在地								
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州	合計
国立大学	2%	10%	1%	0%	1%	1%	1%	1%	16%
公立大学	1%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%
私立大学	1%	72%	0%	0%	1%	3%	0%	1%	79%
合計	4%	84%	1%	1%	2%	5%	1%	2%	100%

「甲信越」のユーザー ⇒ 「関東」私立大が強い

大学	閲覧先の大学の所在地								
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州	合計
国立大学	3%	8%	7%	2%	1%	2%	1%	1%	25%
公立大学	1%	3%	3%	1%	1%	1%	0%	0%	9%
私立大学	1%	52%	5%	1%	3%	4%	0%	0%	66%
合計	5%	62%	14%	3%	5%	7%	1%	1%	100%

「北陸」のユーザー ⇒ 「関東」私立大、「関西」私立大が強い

大学	閲覧先の大学の所在地								
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州	合計
国立大学	2%	7%	3%	11%	3%	5%	1%	1%	31%
公立大学	1%	2%	1%	3%	1%	2%	1%	0%	11%
私立大学	1%	28%	1%	7%	6%	16%	1%	1%	58%
合計	3%	36%	4%	20%	9%	22%	3%	2%	100%

「東海」のユーザー ⇒ 地元、「関東」私立大が強い

大学	閲覧先の大学の所在地								
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州	合計
国立大学	2%	6%	2%	2%	10%	3%	2%	1%	26%
公立大学	1%	1%	0%	0%	5%	2%	1%	0%	11%
私立大学	1%	27%	0%	0%	24%	10%	1%	1%	63%
合計	3%	34%	2%	2%	38%	15%	3%	2%	100%

「関西」のユーザー ⇒ 地元、「関東」私立大が強い

大学	閲覧先の大学の所在地								
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州	合計
国立大学	2%	4%	1%	1%	2%	11%	4%	2%	25%
公立大学	1%	1%	0%	0%	1%	8%	1%	0%	12%
私立大学	1%	16%	0%	0%	2%	41%	1%	1%	63%
合計	3%	21%	1%	1%	4%	59%	7%	3%	100%

「中国・四国」のユーザー ⇒ 地元、「関東」私立大、「関西」私立大が強い

大学	閲覧先の大学の所在地								
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州	合計
国立大学	1%	5%	1%	0%	1%	5%	14%	3%	31%
公立大学	0%	1%	0%	0%	1%	3%	6%	1%	13%
私立大学	0%	20%	0%	0%	2%	18%	13%	3%	56%
合計	2%	26%	1%	1%	4%	26%	33%	7%	100%

「九州」のユーザー ⇒ 地元、「関東」私立大が強い

大学	閲覧先の大学の所在地								
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州	合計
国立大学	1%	6%	0%	0%	1%	3%	4%	18%	34%
公立大学	0%	1%	0%	0%	1%	1%	2%	5%	11%
私立大学	1%	23%	0%	0%	2%	9%	2%	18%	54%
合計	2%	30%	1%	1%	3%	13%	8%	41%	100%

※割合は各地域のユーザー全体の閲覧数を100として算出。

受験生が志望校を選ぶ際の主要な観点に、大学の“エリア”と、国公立の“区分”がある。そこで、各エリアのユーザーが、どのエリア、どの区分の大学を閲覧しているかを表1にまとめた。各エリアのユーザーの総閲覧数を100とし、各エリア、区分の大学の閲覧数が全体の何%を占めているかを表している。例えば、表1から、北海道・東北エリアのユーザーの大学総閲覧数のうち、関東エリアの国立大学の閲覧数が8%を占めていると分かる。この割合を“閲覧率”とした。

表1を見ると、いわゆる2大都市圏「関東」「関西」、旧帝大が存在する「北海道・東北」「東海」「九州」、それ以外の地方エリア「甲信越」「北陸」「中国・四国」の3つで、それぞれ傾向が違ってくる。この違いは、「受験生の学力層」と「大学の難易度やブランド」の関係の違いから生じるものと考えられる。以下、それぞれのエリアについて解説する。

まず、「関東」「関西」を見ると、地元閲覧率がそれぞれ84%、59%と、非常に高い。特にその中でも私立大の閲覧率が高い。これは、私立大の数自体が多いからだけではない。幅広い難易度の有名私立大が多く存在し、どの学力層もこれらの地元大を閲覧するからだ。

続いて、「北海道・東北」「東海」「九州」を見ていこう。このエリアでは、地元閲覧率がそれぞれ37%、38%、41%と、約40%に留まっており、その中でも国立大と私立大が主に閲覧されている。地元以外では「関東」「関西」の私立大の閲覧が多い。これは全国レベルの難関私立大が地元になりにくいからである。しかし、地元で有名なブランド校は存在し、閲覧数を集めている。このエリアの受験生は“上位層の志願先として、地元の国立大”、“上位層の併願先あるいは私立専願者の上位層の志願先として、「関東」「関西」の私立大”、“それに次ぐブランド校として、地元の私立大”と、大学を位置づけているようだ。

最後は「甲信越」「北陸」「中国・四国」。地元閲覧率がそれぞれ14%、20%、33%と低く、「関東」「関西」の私立大の閲覧率が高い。このエリアでは、地元国立大の閲覧率はある程度あるものの、その併願先となる難関私立大も地元ブランド校も少ない。そのため、志望校選びの際は、外に目を向けざるを得ないのが現状だ。

◆エリア別大学閲覧数 TOP20

では、具体的にどの大学がよく閲覧されているのだろうか。ユーザーのエリアごとに、閲覧数上位20校を表2にまとめた。どのエリアも、上位20校には地元国立大のほか、早慶、MARCH、関関同立等の難関、有名私立大が多く並んでいる。

前述の通り、「関東」「関西」は、地元私立大が上位20校の多くを占めた。特に関東は上位50校まですべて地元大で、そのうち43校が私立大だった。

「関東」「関西」以外のエリアを見ると、1位に地元の国立大、以下、その併願校となるような私立大が並ぶ傾向がある。その多くは「関東」「関西」の私立大であり、「関東」の大学では早稲田大、「関西」の大学では立命館大が多いことが見てとれる。また、「甲信越」「北陸」「中国・四国」では、前述の通り、地元私立大の少なさが目立った。

なお、どのエリアも、この20校だけで全閲覧数の約30%以上を占めていた。全国750校以上の大学があるが、受験生が志望校選びの際に実際に調べているのは、難関大、有名大といった一部の大学に偏っているようだ。各エリアの地元閲覧率を比べるときに、大学数よりも大学のブランドの方が強く影響しているのが、この点からも明らかだ。

表2 各エリアのユーザーが閲覧している大学 TOP20

No.	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州
1	国 北海道大	私 日本大	国 新潟大	国 金沢大	国 名古屋大	私 関西大	国 広島大	国 九州大
2	国 東北大	私 早稲田大	私 日本大	国 富山大	私 名城大	私 近畿大	国 岡山大	私 福岡大
3	私 日本大	私 法政大	国 信州大	私 立命館大	私 南山大	私 立命館大	私 立命館大	国 熊本大
4	国 弘前大	私 東洋大	私 東洋大	国 福井大	私 立命館大	私 同志社大	国 山口大	私 西南学院大
5	国 山形大	私 明治大	私 法政大	私 早稲田大	国 静岡大	国 神戸大	国 愛媛大	国 長崎大
6	私 東北学院大	私 青山学院大	私 早稲田大	私 日本大	私 中京大	私 関西学院大	私 近畿大	国 鹿児島大
7	私 早稲田大	私 慶應義塾大	私 明治大	私 同志社大	私 早稲田大	国 大阪大	私 同志社大	国 佐賀大
8	私 法政大	私 立教大	私 専修大	私 金沢工業大	公 名古屋市立大	公 大阪市立大	私 関西大	国 琉球大
9	私 明治大	私 中央大	私 中央大	私 金沢星稜大	私 愛知大	国 京都大	私 関西学院大	公 北九州市立大
10	国 岩手大	私 東京理科大	私 青山学院大	国 大阪大	国 岐阜大	私 龍谷大	国 神戸大	私 早稲田大
11	私 東北福祉大	私 東海大	私 駒澤大	私 関西大	私 日本大	公 大阪府立大	私 早稲田大	私 立命館大
12	私 東洋大	私 専修大	私 東海大	公 福井県立大	私 同志社大	公 兵庫県立大	国 大阪大	国 広島大
13	国 北海道教育大	私 上智大	国 千葉大	私 明治大	国 三重大	私 早稲田大	国 香川大	私 明治大
14	私 北海学園大	私 駒澤大	国 富山大	私 法政大	私 明治大	私 甲南大	公 県立広島大	国 大分大
15	国 千葉大	私 明治学院大	国 山梨大	私 近畿大	私 中部大	私 京都産業大	私 広島修道大	国 山口大
16	国 筑波大	公 首都大学東京	私 神奈川大	国 神戸大	私 愛知学院大	私 武庫川女子大	国 九州大	私 久留米大
17	私 中央大	国 千葉大	私 新潟医療福祉大	国 信州大	公 愛知県立大	私 慶應義塾大	国 徳島大	国 九州工業大
18	私 青山学院大	私 帝京大	国 筑波大	国 名古屋大	私 愛知淑徳大	私 同志社女子大	私 岡山理科大	私 日本大
19	国 秋田大	国 筑波大	私 慶應義塾大	私 慶應義塾大	私 法政大	私 神戸学院大	私 明治大	国 宮崎大
20	私 東海大	私 國學院大	公 首都大学東京	私 青山学院大	私 慶應義塾大	私 関西外国語大	私 松山大	私 慶應義塾大

灰色は地元以外の大学

◆地方創生の視点から

現在、都市圏の一部の大学に、定員の適正規模を超えた学生が集中していることが問題となっている。その現状を鑑み、政府は地方創生政策の一環として私立大の入学定員超過率の厳格化等を実行中だが、いまだに受験生は都市圏に集中している。

かつて、旧文部省による「新高等教育計画」が策定され、全国各地で私立大新設が相次いだ。その背景には、地元若者を呼び寄せたい自治体側からの積極的な誘致もあった。その結果、大学数を増やすことに一定の効果があったのは間違いない。だが一方で、定員割れをする私立大も多く、28年度では44.5%の私立大が定員割れしている。

今回の分析で、地方では地元国立大の併願先になる私立大が少ないという課題も明らかになった。これから18歳人口が減少していく中、大学を新たに拡大していくことよりも、地元の大学の質をいかに上げていくかという視点が、自治体側にとって重要となるだろう。